

個人質問(6月23日) くれまつ順子議員

# 市立幼稚園の 閉園計画を白紙に 1ヶ月余りで反対署名2万筆



くれまつ順子議員は6月23日、市立幼稚園の閉園計画を白紙に戻すことを求めて質問しました。

## 住民の願いに反する 閉園計画

市教育委員会は4月、報徳(北区)、はとり(中川区)、比良西(西区)の3園を2022年度末までに閉園する計画を発表。これにたいして3園の保護者は、合わせて2万筆を超える署名を集めるなど存続を求めて活動しています。



## 区画整理で将来人口 が増える

3つの幼稚園を閉園する理由について教育委員会は、「この先10年で幼児人口が13.5%減少するから、それに合わせて市立幼稚園23園の1割強にあたる3園減らす」としています。くれまつ議員は、「はとり幼稚園のある千音寺学区の小学校の1年生は5クラスで子どもの数は多い。区画整理事業で将来人口が増えていくと予想

されるのに閉園するのか」という、はとり保護者の声をぶつけました。教育長は「区画整理事業にともなう将来の人口増加を加味しても、未就園児の入園に影響を及ぼさない」と答弁。同園がある地域で人口増加が見込まれることを認めました。くれまつ議員は「若い世帯が増えれば、授業料が私立と比べて安い市立幼稚園に預けたい人も増える」と指摘しました。

## 地域の市立幼稚園の 教育実践なくすな

はとり幼稚園は、「富田公園や富田図書館に隣接し、こどもの心身の成長にとって大変素晴らしい幼稚園」と地域から高く評価されています。報徳幼稚園は、地域の子育て支援センターとして、保健所や民生委員からも頼りにされており、また高齢者の方が、園の行

事のボランティアに参加し、高齢者の憩いと生きがいの場になっています。くれまつ議員は、「地域にとけこんだ市立幼稚園の実践を地域からなくしてもよいのか」と追及。「『幼児教育センター』を設置して、それぞれの市立幼稚園と連携して幼児教育の質の向上に取り組んでいく」という教育長の答弁に、「センターが連携すべき、素晴らしい教育実践を行っている幼稚園をなくそうとしているのが問題だ」とビシヤリ。

くれまつ議員は、3つの園の保護者が、「未就学園児」を対象にした「未就学園児の会」を開催するなど、園児を増やす努力をしていることを紹介。「今回の閉園計画は、こうした保護者の努力に冷や水をあびせるものだ」と厳しく指摘し、閉園計画の見直しを求めました。

## 敬老パス私鉄へも利用拡大 「値上げはしない」(河村市長)

先の市長選挙で、名鉄・JR等への利用導入検討を公約していた河村市長。約24億円で実現できます。

くれまつ議員が独自の住民聞き取り調査をひきながら「値上げをせずに利用拡大を」と確認すると、

河村市長は「値上げはしない」と応じました。くれまつ議員は「敬老パスは事業費の2倍の経済効果が実証されており、健康効果・環境効果もある、名古屋の福祉の象徴となるすぐれた施策。早期の拡大実現を」と重ねて求めました。